

## 「シーズン最終戦！ チャンピオンたちの走り！」



お見事初優勝！！ #45

3月に開幕した今シーズンのGT耐久東海シリーズもあっという間に最終戦。第4戦までですべてのクラスにおいて今シーズンのチャンピオンが決定しているが、この最終戦はその新チャンピオンたちのお披露目バトルということにもなる。チャレンジャーたちは新たな戦いに向けて真っ向から挑んでくる、それを横綱相撲で寄り切れるか。

初冬ともいえる季節なのだが、今日の愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークは、最高気温が20度に届こうかという陽気、シーズンしめくりにふさわしい。

### 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

今回のエントリーはなんと11台、過去最大級の盛況ぶり。K耐久のKNN同様”手軽ではあるが本格的”というコンセプトが受け入れられたようだ。マシンとしてはHT81Sスイフトスポーツがさらに増え、K12マーチSR等の新顔が新旧フィット・ヴィッツ・シビックあたりと激突する。チャンピオンマシンの#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)の走りはどうか、今回もウエイトは40kgとなっている。

#### ■予選

クラストップは#15「シャトー・ラ・フィット」1'04.208で、新チャンピオンの貫録を見せる。2番手は#45「剛式レーシング☆フィット」1'04.376、こちらは初代フィット。3番手は#411「AITACスイフト」1'04.991とここまでが4秒台。

4番手#70「トータルセブンシビックGT」1'05.580、5番手#39「赤ヴィッツ1号機」1'06.143、6番手#21「ZESTルプロススターレット」1'06.740、7番手#77「トータルセブンロードスター」1'07.378、8番手#11「アンリミテッドDXLヴィッツ」1'07.727。9番手以下は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」1'08.047、10番手はNAロードスターで参加していたチームがK12マーチに変更しての出場#870「MSCJ東海マーチ」1'08.787、11番手は初出場の#99「しんかい2500スイフト」1'15.170

#### ■序盤

スタートから#45「剛式レーシング☆フィット」が飛ばす。このマシンは今年から出場しているもので、途中リタイヤと少し不運に泣かされてきた。それでも懸命のポテンシャルアップの甲斐あって、予選ではトップに迫る速さを見せるまでに至った、さあ今日の主役をいただくか。

#21「ZESTルプロススターレット」、#70「トータルセブンシビックGT」といった猛者たちが上位陣を形成。さらに新チャンピオンの#15「シャトー・ラ・フィット」も4番手につけ、逆転を狙う。

中団グループでは、#411「AITACスイフト」や#39「赤ヴィッツ1号機」、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、#77「トータルセブンロードスター」が混戦状態、ここから抜け出して、上位争いに加わるのはどこか。さらに#870「MSCJ東海マーチ」、#11「アンリミテッドDXLヴィッツ」も上位進出を狙うが、初参加の#99「しんかい2500スイフト」にはマシントラブルの気配。



新チャンピオン今回は2位 #15



初優勝は来季へと #21



スイフトも健闘 #411

# Race Report



## ■中盤

中盤で上位争いをしたのは#21「ZEST ルブロススターレット」と#45「剛式レーシング☆フィット」。それに#411「AITAC スイフト」と#15「シャトー・ラ・フィット」が迫る。さらに#70「トータルセブンシビック GT」もまだまだ引き下がらない、チームメイトの#77「トータルセブンロードスター」をひきつけて3位争いに挑む。

ヴィッツは中団グループを形成、しかし#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」はコースアウトで後方にポジションダウン、しかしながらレース続行は可能のようだ。序盤からトラブルの心配がしていた#99「しんかい 2500 スイフト」は、マシンのオーバーヒートから38Lapにて戦列を離れることに。

## ■終盤

レースものこり1時間、いよいよ上位陣による優勝争いが白熱してきた。ここでトップに立った#15「シャトー・ラ・フィット」を先頭に、8位の「トータルセブンロードスター」までが5Lapの中に入り混戦バトル。

マシン替えの#870「MSCJ 東海マーチ」や、中盤でコースアウトを喫した#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」もあきらめずに周回を重ねて来ている。



唯一のリッターカー #46



ゼッケン 77 で順位も 7 位 #77



粘って完走 #11



序盤からフィットのバトル！



こちらも懸命の粘りで完走 #39



最下位ながら見事完走 #870



オーバーヒートとのこと #99



うさぴょん ♡♡

## ■最終結果

この混戦バトルを制したのは#45「剛式レーシング☆フィット」、途中ピットロード速度違反と、その履行遅れによる1周減算措置が取られたものの、なんとか2位以下を1周差で振り切った初優勝。

2位には最後の追い込みがわずかに届かなかった#15「シャトー・ラ・フィット」、新チャンピオンを勝利でたたえることはできなかったが、意外なサプライズがこの後待っていた。

表彰台の最後は#21「ZEST ルブロススターレット」、なかなか勝ちきれないが、表彰台は constants にゲット、勝利の美酒は来季へのお楽しみか。

4位は#70「トータルセブンシビック GT」、かつての爆発的な速さは影をひそめたものの、1+2 クラスの速さを引き上げた張本人には来季の復活を期待。

5位#411「AITAC スイフト」、予選の速さからすると5位は物足りない気もするが、トップまでは2Lap とその差は思いのほか少ない、それだけ接戦だったということ。

6位は唯一のリッターカー、#46「ポイズヴィッツアンビシャス」が健闘、7位#77「トータルセブンロードスター」でこちらは唯一のFR、8位#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、今回は満身創痍だったが、開幕戦の勝者でもありヴィッツの先駆者でもある走りを見せてくれた。

9位#39「赤ヴィッツ1号機」、こちらもヴィッツだ。最終盤にマシンがストップしたが、なんとかチェッカーに間に合わせようと懸命の努力。それが実ってみごとに完走。

10位#870「MSCJ 東海マーチ」、速さは劣るが、なかなかコントロールはしやすいマシンだ、しいて言えば12SRはタマ数がないことと専用パーツは厳しいか。

#99「しんかい 2500 スイフト」は大事をとってのリタイヤだが、自走で帰れるとのことなのでひと安心、次回は完走を期待。



# Race Report

## ■総評

あっという間のシーズンだったが、とうとうフィットがチャンピオンに。一昨年から参戦を開始し、今季第2戦で初勝利を挙げるとそのまま、3連勝でチャンピオンに上り詰めた。スポーツカー不毛の時代のマシンをうまくセットアップしてのレースさまざまな試行錯誤があったと思われるが、チームに拍手。

フィットといえば、初代マシンが最終戦で勝利を挙げたのも注目。今季初参戦時よりも5秒近く上げて、速さもトップクラス、来季はフィットが席卷するか。

もう一つの注目はスィフト、HT81は程度のいい個体こそ少なくなっているとのことだが、レースに使うのならまだまだイケそう。ジュニア WRC を席卷したイグニスサーキットにも吠えるか。

さて、#15「シャトー・ラ・フィット」に待っていたサプライズとは。年間表彰式でのプロポーズ♥ アマチュアといえどもレース活動をするには家族の協力が欠かせないもの、生涯の伴侶になられる方はこの日初めてレースを見たとのこと、これからはともに楽しんで長く続けてほしいもの。

様々なことがあった今シーズンもひとまず、その幕を閉じるが、こころは早くも来シーズンへ、新たなマシンやチームの参加はあるのか、より楽しいレースに期待したい。

♪受取って欲しい…この指輪を  
受取って欲しい…この心を～♪



年間表彰に花を添えるサプライズ 幸せパワーでタイムアップ！！





最終戦も勝利！！ #87



わずかに及ばなかった #110



上位バトルは見ごたえがあった #62



ドライでは4位 #106



ドライでは少々パワー不足か #111

## 「3C」クラス（1501cc以上のNA車と、1201cc以上の過給機付き車のクロードクラス）

第3戦を2位とした以外、すべて優勝というほぼ完璧な成績で今シーズンの王者となった、#87「IDI NUTEC SYCシビック」、速くそして強かった。

そんな新王者の凱旋レースともいえるシーズン最終戦、1P差に3チームがしのぎを削るランク争いも注目。

初参加はないが、開幕戦以来の出場となる、#68「ベストライフ シビック」、第3戦以来の#2「MorixホワイトナッツNB8」の2台も含めて全8台のエントリー。

### ■予選

予選トップは”指定席”に帰ってきた#87「IDI NUTEC SYCシビック」が1'01.444を記録、クラス唯一の01秒台で全体のPPを獲得。#110「DXLアライメント浜松レビン」が1'02.059は2番手タイム。3番手は#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」1'02.954、熾烈なシリーズ2位争い。

4番手は#111「S'tecAE-1ファジーレビン」1'04.297、5番手は#106「D&Mスパイクオート106」1'04.504、シリーズ上位を争う実力チームが並ぶ。

6番手は#2「Morix ホワイトナッツ NB8」1'05.641、唯一のFR。7番手#8「チーム111レビン」1'07.378、2回目の参加でだいぶ雰囲気は掴んだか。そして最後尾は久々参加の#68「ベストライフ シビック」、タイム計測はなかったが決勝での巻き返しに期待。

### ■序盤

序盤からトップに躍り出たのは、#110「DXLアライメント浜松レビン」。第4戦では終盤のコースアウトによってタイトルへの道を閉ざされてしまっただけに、悔しさもひとしお。今回はその雪辱に燃えている。

それを追うのは、#87「IDI NUTEC SYCシビック」、#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」と役者は揃った。さらに#106「D&Mスパイクオート106」、#111「S'tecAE-1ファジーレビン」あたりも上位進出を狙うが、ドライでは少々厳しいか。

#8「チーム111レビン」、#2「Morix ホワイトナッツ NB8」が追いかける。

#68「ベストライフ シビック」はスタート直後からトラブルに悩まされていたが、少しずつ周回数を挽回している。

### ■中盤

レース折り返し時のオーダーはこうだ。トップに行くのは#110「DXLアライメント浜松レビン」、76Lap。それを追いかける#87「IDI NUTEC SYCシビック」が75Lap、3番手は#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」73Lap。ここまでが表彰台圏内だが、もちろんどのチームにも優勝のチャンスはある。

4番手#106「D&Mスパイクオート106」72Lap、#111「S'tecAE-1ファジーレビン」70Lap。この辺りが第2集団。

さらに#2「Morix ホワイトナッツ NB8」69Lap、#8「チーム111レビン」68Lapと思いのほか差がない、まさに混戦。

序盤の出遅れで心配された#68「ベストライフ シビック」も47Lapとなっており、規定周回数クリアをめざす。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

レースも終盤を迎えるところだが、今回もペナルティが目につく。多いのはピットロード速度違反、コースでのスピードは歓迎すべきものだが、ピットロードの速度違反は完全なルール違反。つつい気が付かずに、ピットイン時に速度違反を犯し、そのペナルティとして課されるドライブスルー時にさらに速度違反をというケースもあった。ドライバーはもちろんだが、チームとしても指示・注意を徹底し、これらの違反の撲滅に努めてもらいたい。

さて、優勝のゆくへは#110「DXL アライメント浜松レビン」と#87「IDI NUTEC SYC シビック」、#62「WN☆ワコース☆CLNシビック」の3台に絞られてきた。勝負の最終スタントだ。

第2集団からは#106「D&M スパイクオート106」が抜け出した、表彰台まで届くか。

5番手以下は#2「Morix ホワイトナッツNB8」、#8「チーム111レビン」、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」。#68「ベストライフ シビック」もこのペースなら完走できそうだが、まだまだ油断は禁物。



東海シリーズの雰囲気には慣れた #8



序盤の遅れからしっかり完走 #68



完走ならず #2



年間表彰



例えば AE111 ではボデーパーツなどの補修部品が出にくくなっているとのこと





## ■最終結果

今シーズンの最終戦の優勝を飾ったのは#87「IDI NUTEC SYC シビック」。最終ステイントでそれまでトップを守ってきた#110「DXL アライメント浜松レビン」をかわし、逆転でシーズン 4 勝目を飾った。

2位は惜しい#110「DXL アライメント浜松レビン」、トップとは17秒弱の差。これは総合でも1位&2位だ。そして3位表彰台の最後の一つは、#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、トップからは2Lap遅れだったが、これまた総合で4位という好成績。

4位は#106「D&M スパイクオート106」、5位#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」、6位#8「チーム 111 レビン」、7位は見事に規定周回数をクリアした#68「ベストライフ シビック」。#2「Morix ホワイトナッツ NB8」は義務ピットイン回数不足のため章典外。

## ■総評

シリーズ優勝は圧倒的な力を見せて、#87「IDI NUTEC SYC シビック」のものとなったが、2位以下は大混戦、これはそれだけ各チームの力が接近しているからに他ならない。今回8台を集めたエントリーで、シビックが3台、レビンが3台、インポートカーのブジョーとFRのNBロードスターがそれぞれ一台と、まずまずバラエティに富んだ車種構成で見方も楽しましてもらった。

ただ、かつてはホットハッチと呼ばれ新車・中古車をとわず人気のあったカテゴリだが、近年はいささか寂しい気も・・・一部には補給部品等が出にくい車種もあるとき。

ここはノーマル+αでも楽しめる車種のラインナップをメーカーに期待するとしましょう。





今回は気迫勝ち！！ #19



新王者が2位に入る #44



粘ってシーズン4回目の3位 #58



残念 完走ならず #16



こちらも無念 #405



年間表彰



## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

第4戦で新チャンピオンとなった#44「剛式レーシングシビック」、最終戦はマシンの色を変えて出場（黄色⇒白）。前回悔しい思いをした#19「YADOKARIシビック」、最終戦で一矢を報いるか。それに#58「小林板金 EG6」、#16「そらそうよシティ」のホンダ車に加え、久々の参加となる#405「インフィニティー FX」昭和の音を響かせるか（実際は5バルブ4A-Gなので平成だけだね）。

### ■予選

予選トップは#19「YADOKARIシビック」が1'01.841で取り返す。2番手は#44「剛式レーシングシビック」1'02.858、3番手#58「小林板金 EG6」1'05.147、4番手#16「そらそうよシティ」1'06.777、5番手#405「インフィニティー FX」1'10.220という予選結果。

### ■序盤

悔しさをぶつけるように、序盤から飛ばす#19「YADOKARIシビック」。それに遅れまいとする2番手以下。その筆頭はやはり#44「剛式レーシングシビック」だが、今回は#19YADOKARIの気迫が勝っているか。

3番手争いは#58「小林板金 EG6」と#16「そらそうよシティ」。#405「インフィニティー FX」は、序盤からトラブルを抱え少々不安な立ち上がり。

### ■中盤

中盤で#58「小林板金 EG6」が勝負を仕掛けるが、#19「YADOKARIシビック」はそのポジションを守りきる。#44「剛式レーシングシビック」は王者の余裕か。

#16「そらそうよシティ」は単独走行、#405「インフィニティー FX」は40Lap 走ったところで、ラジエータが破損し万事休す。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

終盤になって上がってきたのはやはり、#44「剛式レーシングシビック」。#19「YADOKARI シビック」との一騎打ちに持ち込むか。

好調だった#58「小林板金 EG6」にもトラブルが襲い、勝負どころで後退を余儀なくされる。#16「そらそうよシティ」も同様に思ったように周回が稼げていない。

## ■最終結果

結局最終戦は#19「YADOKARI シビック」の気迫が勝り、2位以下に5Lapの差をつける完勝、昨年王者の意地を見せた。

2位は#44「剛式レーシングシビック」、3位は何とか粘った#58「小林板金 EG6」だが、#16「そらそうよシティ」と#405「インフィニティー FX」は残念ながら完走することはできなかった。

## ■総評

昨年100点チャンプの#19「YADOKARI シビック」が、無得点レースなどもあったが、#44「剛式レーシングシビック」が安定した走りを見せて、見事新王者に。しかしながら両者の間にはポイント差ほどの差はなく、僅差の勝負だった。

来年は新たなチャレンジャーの出現はあるのか。

